

主体的に学ぶ弥富っ子の育成

～ 教科学習を通して ～

○ 昨年度の研究を振り返って

昨年度までの学校努力点では、総合的な学習の時間と生活科において「知りたい！伝えたい！わたしたちのわくわくプロジェクト」というテーマで取り組んだ。プロジェクト型学習を通して、自分なりの問いを立て、自分なりの方法で、自分なりの答えにたどり着く力を育ててきた。

「ふれる」「みつける」「しらべる」「つたえる」のという学習の流れに沿って進める中で、導入や振り返りの工夫、子どもによる自己決定の場面設定などを行うことによって、主体的に学ぶ子どもの姿を見ることができた。

○ 今年度の研究について

今年度はこの成果を踏まえて、「主体的に学ぶ」子どもを育成していきたい。この姿は総合的な学習の時間と生活科に限定するのではなく、様々な教科学習を通して見られるとよいものである。

学習指導要領解説総則編においては、主体的な学びの実現に向けた授業改善の視点として「学ぶことに興味や関心を持ち、（中略）見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」ことをあげている。また、学習評価の在り方ハンドブックにおいては、主体的に学習に取り組む態度の評価として、「①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる」とある。本校が目指す主体的に学ぶ子どもは、教科学習の中で「粘り強い取組」を行い、「自らの学習を調整」できる子どもである。